

# ザルツブルク紀行（奇行？）

高取 弘子

二〇一八年秋

スポーツジムで並んでマシントレーニング中、友人が「ザルツブルク音楽祭、夫からもう行かないと拒絶されたので、来年は一人で行く」と呟いた。聞けば、旅行社を通さず、空路、宿泊、チケット等、ご自分で予約なさるとのこと。旅行の足手纏いにはならないようにするから、と、厚かましくも恐る恐る同行をお願いすると快諾を戴いた。その後、日程、プログラム、アパート等、検討し十一には予約完了。

「天国と地獄」「サロメ」は良いとしても、「ルイザ・ミラー」は先日にもトロポリタン歌劇場の映画を見ただけ、「シモン・ボツカネグラ」は大昔にスカラ座の引越越し公演で見たような。よってこの対訳付きBlurayを購入し予習となった。YouTubeにオペラ演目別にA4判一枚に纏められた幕毎の場面、粗筋、見どころ聴きどころ等の解説プリントを見つけ印刷。プリント下部に「(注) 紙の音がするので、開演中は、このA4紙をしまってください」との注意書きがあった。笑えた。後日、会場で添乗員の

方が団体客に配布しているのを目撃した。

……というところで、長年の夢であったザルツブルク音楽祭に行つて参りました。

二〇一九年八月二十三日（金）

出発。成田に向かう京成電車に友人が勝負服のロングドレスの衣装ケースを忘れ、何とか取り戻したことから始まった。ウィーン行オーストリア航空のチェックイン時に「このスーツケースは壊れていましたか？」と問われ、確認すると、私のサムソナイトのコロ？が一箇所無い。そんな馬鹿な！すると、カウンター横の荷物預かりにコロが転がっており、結局、航空会社修理扱いに。しかし今直ぐには修理不可能。よって、帰国後の修理となり、三本足でのガタガタの旅行が始まった。

現地八月二十三日（金）

ウィーンで乗り換え、深夜ザルツブルク空港

着、タクシーで間口一間もない様なアパートへ。事前に教えられたキーボックスからやつとのもので鍵をゲット。エレベーター無しで四階建て、狭い石の階段の四階まで二人で荷物を三回に分けて運び入れ、一息。

部屋は快適。ベッドルームとリビングルームに夫々ダブルベッド、計二台。冷蔵庫、キッチン用品、食器、洗面所、バスタブなしのシャワー等完備、ユーティリティ広し。（後日、洗濯機も借りられた）ともかく就寝。

八月二十四日（土）

起床後、近所を散策。アパートは旧市街で最も賑わうゲトライデガッセ通りに面していた。カフェでモーニング、マーケットで食料調達。初っ端はマチネー。ザルツブルク祝祭大劇場の主会場「大ホール」でのウィーンフィル「マラー交響曲五番、亡き子を偲ぶ歌」十一時開演に出勤。会場へは徒歩三分の好立地。歌劇場を見ただけで興奮。ウィーン国立歌劇場のような重厚な雰囲気ではなく、意外にシンプル。席



## 八月二十五日（日）

午前中、新市街を散策し、観光協会で明日のベルヒテスガーデンの岩塩抗見学バスツアーを申込み。名物料理フライドチキンとスープのテラスでの昼食。

十五時、祝典大劇場の演奏会形式のオペラ「ルイザ・ミラー」開幕。二階最前列角、劇場内が俯瞰出来、音の広がりを感じられる。セクハラ問題後のドミンゴ、老けたのにびっくりもソリスト陣の力量に感動。字幕は英語とドイツ語。予習してきたことより、聴き逃しはせず？割れんばかりのカーテンコール。演奏会形式は音楽に集中出来て大満喫。帰宅後、軽く夕食、夜に備えて仮眠。

二十時三十分、祝典大劇場のベルリンフィル「ベートーベン第九」「ベルクのルル組曲」。初めてのソワレの大劇場。メリハリある身体に思いつきりのピンヒールのロングドレス、007のポーズが似合いそうなタキシードが目奪う。席はまたしても中央ブロック舞台前三列目、不服ながら、コンサートマスター樫本大進氏と目が合うよう？ 熱演を「目」で聴いた。指揮は八月にベルリンフィル首席指揮者に就任したのペトレンコ。興奮絶頂で帰宅、ビールで

乾杯。年末のN響第九は聴かないこととした。

## 八月二十六日（月）

岩塩ツアー。ザルツブルクに繁栄をもたらした「岩塩」。貸し出された繋ぎの作業服？に身を固め、トロツコ電車にまたがり、採掘跡の構内見学、地下の長い滑り台を降りて、地底の塩の湖へ。随所で降りて説明。興味深かった。その後、レストランでボリウムたつぷりのチキンフライランチを完食。約四時間のツアー。マーカーで食料調達後、洗濯等。友人は毎日、空き時間で英会話レッスンとストレッチを。私はゴロゴロ、その後、仮眠。

十九時開演のハウスフュアマーツアルトホルの新演出「天国と地獄」。粹でお洒落ではないが、エネルギーで騒々しく、愉快で愉快だった。友人は終了後、カーテンコール途中で大劇場へ駆け足。ベルリンフィル「チャイコフスキー交響曲五番」へハシゴ。  
劇場を出ると雷ゴロゴロ、土砂降り。傘は役に立たずも地の利で帰宅。アパートの隣のジェラードを食す。このお店、二十種位のジェラードを揃え、一個一ユーロ。毎日二〜三個は食べた。

は中央ブロック最前列中央、管楽器が見えない、アンサンブルが悪い、けど、ハーブと弦楽器による第四楽章アダージェット、曲の流れにたゆとうよう、でした。高揚した気持ちでミラベル公園辺りフラフラ散歩後、お部屋でビールも呑んで遅ランチ。夜に備えて仮眠。

夜の内田光子さんのピアノソナタ。シューベルト最後の三曲 D958° D959° D960°。ハウスフュアマーツアルトホールにて。サントリーホールでのコンサートでは二曲であったとのこと。エネルギーシユ、圧巻、日本の女性は強い。感動を胸に帰宅。ビールと軽食で乾杯。一時過ぎに就寝。幸せに浸り爆睡。

## 八月二十七日(火)

バス乗車券、博物館や美術館入場券が二日間フリーのバスを購入。バスでヘルブルン宮殿の水の庭園へ。思いがけない至る所から突然水が噴き出る仕掛け。はしやぎ回り、愉快であった。街中に戻り、買い出し後、部屋で食事。時間をもつたないので外食せず、家での食事に。その後、仮眠。

十九時、大歌劇場の新演出オペラ「シモン・ボツカネグラ」。この演目は何と五十八年振りとか。対訳付きのBlu-rayを購入し、予習したにも関わらず……。時代設定が現代で、携帯電話を持った男性集団が現れたり、そうでなくても内容が派手でなく、難易度が高く、充分には入り込めないまま終わった。今年の「目玉」とも言われているのに。

## 八月二十八日(水)

ザルツブルク市内観光スポットへ。入場料等はバスでフリー。まずはケーブルカードでホーエンザルツブルク城塞へ。一〇七七年に築き始め、塩の交易で得た豊潤な財力で絶えず増改築。十七世紀半ばに現在の建物へ。レジデンツ(大司

教の宮殿)、大聖堂等、ザルツブルクの歴史を駆け足で。ケーキなどを買ひ、アパートでお昼ご飯。午後は友人と別行動でモーツアルトの生家、数件の博物館や美術館、お店巡り。アパートで合流し、軽く食事、仮眠。

二十時、オペラ「サロメ」。フェルゼンライトシュレーにて。メンヒスベルグの岩壁を削って建てられ、舞台背後に岩肌を残した独特のホール。サロメは昨年二〇一八年の再演。ぶつ飛んだ演出に引き込まれた。少女のような可憐な出で立ち、純白のドレスには赤い沁み有りのサロメ、ヨカナーンの首が馬だったり、舞台上に白い液体を撒いたり。フェルゼンライトシュレーとは「岩壁の馬術学校」とか。劇場に則った演出か。再演の為？ 演出の為？ 拍手も直ぐには湧きあがらず？だが、ひしひしとシヨックが押し寄せた。凄いものを観た、遭遇した気がする。今になっても脳裏に各々の場面が残存している。これがザルツブルク音楽祭の演出か、納得。DVDかBlu-rayを購入したい。

## 八月二十九日(木)

個人行動でミラベル宮殿と庭園、モーツアルト住居、その他散策。お土産等物色し、帰宅。

友人と合流し、食事、仮眠。最後の夜に備える。十九時三十分、初めてのモーツアルテウムでの室内楽。内田光子のピアノと若手のフルート、ソプラノ。現代音楽も含め、楽しめた。最後の夜に乾杯。

が、夜半の携帯にメールが。翌朝のザルツブルクとウィーンのオーストリア航空が中止？ルフトハンザでデュッセルドルフへ、そしてANAで成田へと。えっ聞いてないよう。ウィー



ンでの乗り換えの六時間に、前回のウィーンが冬で閉鎖していた「第三の男」の大観覧車やシュテファン寺院に行く計画があったのに。プリン。

### 八月三十日（金）

早朝、後ろ髪を曳かれながらザルツブルク空港をあとに。デュッセルドルフでは地下鉄を乗り換えライン川を目指す。ステーキでランチ後、ライン川遊覧。晴天の下、川風に吹かれ至福の時。行き当たりばったりの勝利。古い建築物、教会を散策。ウィーンで乗り換え、ANAでスムーズに帰国。

### 八月三十一日（土）

成田からリムジンバスで東京駅へ。キャリーバッグを転がしているところを高島屋帰りのご近所の方に目撃されていた。

帰国後、スーツケースを航空会社に送り、一か月程で修理されて戻った。

しかし、ここで話は終わらない、まだ続くのである。

### 十一月二日（土）

オーストリア大使館で、ザルツブルク音楽祭の来年百回記念を兼ねてか、セレモニー、パーティーが開催され、私達も招待された。が、私は別の友人とウズベキスタンへ行く予定があり、日程変更も不可能で泣く泣く（号泣で？）諦めた。ウィーンフィルが来日中で指揮者クリスティアン・ティールマンのスピーチ、ウィーンフィルメンバーによる室内楽が演奏された。そう。大使館員、音楽関係者、音楽祭常連者、その他、うかがい知れないやんごとなき人々がひしめいていたようであった。終宴後、地下鉄で帰るのは友人を含め数える程だったとか。以上で幕。カーテンコールは個人的に。

